

「過去」と政治

戦後ドイツから何を学ぶか

2016年7月9日(土)
15:30~17:00

土樋キャンパス 8号館5階 押川記念ホール

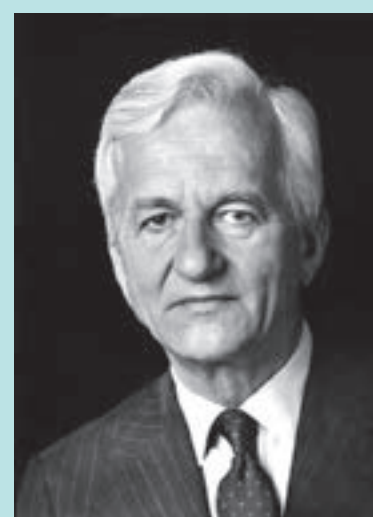
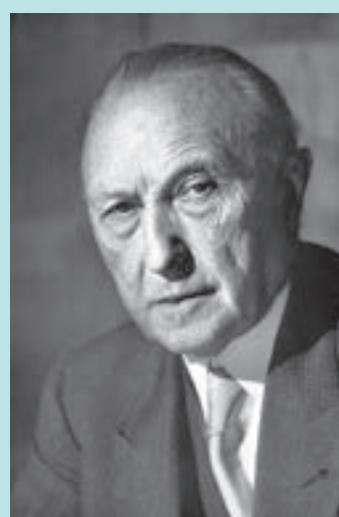
申込不要・受講料無料

直接会場にお越しください



講師

板橋 拓己 (いたばし たくみ)
成蹊大学法学部教授



しばしば指摘されますように、日本とドイツの近現代史には共通点が多いと言えます。たとえば、どちらも第二次世界大戦の敗戦国ですし、戦後は保守優位の政治と高度経済成長を経験しました。他方で、政治制度にせよ、安全保障政策にせよ、「過去」との向き合い方にせよ、戦後の日本とドイツ（本講演ではドイツ連邦共和国に限りますが）は、かけ離れているようにも見えます。そして、この日独の異同を考察することは、日本の「戦後」を考えるにあたっても、刺激的なヒントに満ちています。そこで本講演では、とりわけ戦後ドイツの「過去の克服」（自国の負の歴史に対する取り組み）に焦点を当て、「過去」と政治の問題について考えていきます。

東北学院大学土樋キャンパス案内図



主催：東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所

問い合わせ先：

東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所

Tel: 022-264-6379

E-mail: europe@mail.tohoku-gakuin.ac.jp